2012年度後期展示

―印象派画家―

11月のテーマ『Renoir』

ルノワールは1841年リモージュに生まれ、1854年、絵付（えつけ）職人として陶器工房に徒弟奉公に入るかたわら、夜学で素描を学びました。「カフェ・ゲルボアの集い」に参加し、マネ、モネの影響をうけてしだいに印象主義の技法とビジョンの形成へと向かっていきました。その後ラファエロとアングルの作品を研究したことにより、明確なデッサンと寒色調の色彩に転じますが、1890年頃にはカーニュに定住して花や裸婦などをもち前の豊潤な色彩で描きました。1912年以降身体が不自由になってのちも、円熟した豊かな色彩を失うことなく絵画制作を続け、1919年12月、遺作となる『水浴びする女たち』を仕上げた後他界しました。